

洞爺湖ビジターセンター 2014年度 自然ふれあい通信



オリジナルキャンドル

(2014年11月15日開催)

キャンドルと電灯はそれぞれの良さがあります。
電灯はなんと言っても明るくて便利です。最近はLED照明が主流になりつつあるので、使うエネルギーもだいぶ少なくなっています。
一方キャンドルの明るさはそれほどでもありませんが、雰囲気の良いさと災害時など電源のない状況での非常用の明かりとしてとても便利です。
そこで今回は、飾って美しい、雰囲気抜群、非常時には頼もしい、というキャンドルを作ります。



キャンドルは石油から作られるパラフィンという原料を使います。これは、仏壇などで使うろうそくと同じものです。約60℃で溶けるので、湯せんで溶かして使います。

型（紙コップなど）に、芯を通して、あらかじめ用意した色つきのパラフィンのブロックを入れます。

そこへ、溶かして液体になっているパラフィンを流し込んで固めるとできあがりです。

色のついたブロックはキャンドルの表面（型にぴったりくっつける感じ）に出ていないと「模様」にならないので、完成したときの様子を想像しながら色ブロックを丁寧に配置します。

液状のパラフィンが固まるまでの時間は季節によって変わりますが、今回は寒かったので約15分で固まりました。

固まるまでの間に、キャンドルにまつわるお話（最近の非常用キャンドルは、今回作ったものと同じように、揺れても倒れにくいよう、太くて短いものが主流です、など）をしました。



紙コップくらいの容量で4時間程度は燃焼をつづけますが、1時間燃焼させる→数時間冷ます、を繰り返すとパラフィンのたまっている中心部分だけが沈むように溶けます。これによってキャンドルの模様がステンドグラスのように見えて綺麗です。

キャンドルを点灯するときは、必ず燃えないもの（陶磁器や金属製の大きめのお皿）を下に敷いてください。また、乾燥しやすい季節ですので、火の元には十分ご注意ください。

主催

洞爺湖ビジターセンター等利用協議会

支笏洞爺国立公園
Shikotsu-Toya National Park

世界ジオパークネットワーク認定地域